

鹿児島県

精神障害者の地域移行・地域定着に向けて

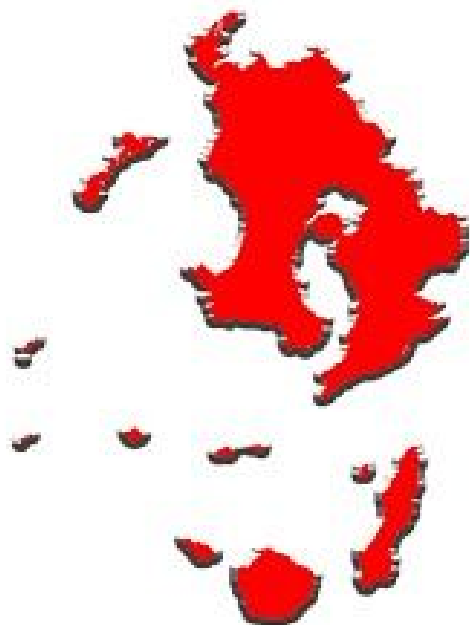
鹿児島県は、人口万対在院患者数が全国最多であり、平均在院日数もワースト4位という状況です。

入院が長期化する理由は何なのか、地域移行を進める上で行政としてできる支援は何か、ここ数年で課題の整理を行ってきました。

来年度以降は、課題解決に向け一歩進んだ取組を行います！

1 県の基礎情報

鹿児島県



取組内容

【人材育成の取り組み】

- ・ 「精神障害者地域移行・地域定着推進研修会」の実施
- ・ ピアサポート専門員の育成

【精神障害者の地域移行の取り組み】

- ・ 保健所単位で「精神障害者地域移行・地域定着推進会議」を開催し、地域課題や課題解決に向けた取組を検討
- ・ 「受入条件が整えば退院可能な入院患者」の状況等について調査し、退院に向けた課題を整理

基本情報

圏域数	9カ所
人口	1,659,319人
精神科病院の数	51病院
精神科病床数	9,709床
入院精神障害者数	3か月未満：1,342人（15.4%）
	3か月以上1年未満：1,415人（16.3%）
	1年以上：5,944人（68.3%）
退院率	入院後3か月時点：50.1%
	入院後1年時点：84.0%
相談支援事業所数	一般相談事業所数：64
	特定相談事業所数：137
障害福祉サービスの利用状況	地域移行支援サービス：3人
	地域定着支援サービス：0人
保健所	14カ所（県保健所13、市保健所1）
（自立支援）協議会	（人材育成について議論） 県としての部会の設置なし
	（精神障害者の地域移行について議論） 県としての部会の設置なし
精神保健福祉審議会	毎年1回開催、委員数16名

※H27年6月時点（相談支援事業所数は26年度末時点）

2 都道府県としての精神障害者の地域移行推進のための人材育成の取り組みの経緯

➤ 研修会の実施

- 県の主催で年1回，病院・相談支援事業所・行政等を対象にした研修会を実施
- これまでの研修内容
 - H24：地域移行・地域定着支援についての講話，グループ討議
 - H25：アウトリーチ支援に係るシンポジウム，ピアサポートについての講話
 - H26：リカバリーとピアサポート人材育成に係るシンポジウム，講話
 - H27：地域移行支援に係るシンポジウム，地区ごとのグループ討議

➤ ピアサポート人材育成事業（平成26年度単年度事業）

- 事業内容
離職失業した精神障害者をピアサポーターとして育成するため，精神科病院や障害福祉サービス事業所等において雇い入れ，利用者（入院者）の在宅生活や退院に向けた支援，事業所での作業補助等に従事させ，併せて，知識及びスキルを習得させるための研修（「精神障がい者ピアサポート専門員養成研修」を活用）を実施
- 実績
4法人で8名のピアサポート専門員を育成（現在も継続雇用中）

3 都道府県としての精神障害者の地域移行の取り組みの経緯

➤ 精神障害者の地域移行・地域定着推進会議の開催

1 目的

保健所単位において、精神障害者地域移行・地域定着推進会議を設置し、医療、地域（福祉）、行政の連携のもと、市町村圏域における精神障害者の地域生活への円滑な移行を促進するとともに、障害者総合支援法に基づき設置される協議会と連携し、多様なサービスの活用等、地域ニーズに適した支援体制の構築を行うとともに、管内市町村における精神障害者の地域移行・地域定着支援の全体的な水準の向上を図る。

2 支援・検討内容

- ① 管内市町村における精神障害者地域移行・地域定着支援の取組状況の把握・評価及び実情に応じた支援体制整備・方策の検討
- ② 精神障害者の地域移行・地域定着支援体制等に係る先進事例等の収集・普及
- ③ 管内市町村への指導・助言
- ④ 地域の医療・相談支援関係者等を対象とした地域移行・地域定着支援に係る研修会の開催
- ⑤ 精神障害者の地域移行・地域定着支援に係る医療と福祉の連携に関すること
- ⑥ その他、管内市町村における精神障害者の地域移行・地域定着支援の全体的な水準の向上を図るために必要なこと

➤ 「受入条件が整えば退院可能な入院患者」の状況調査

1 目的

精神障害者の地域生活への移行を推進する上で、退院を阻害する要因を整理するため、県内全精神科病院に対し、病状が安定しており受入条件が整えば退院可能な入院患者の状況等について調査を実施

2 調査時点

平成27年11月30日

3 調査結果の活用

市町村等に情報提供し、精神障害者の地域移行・地域定着に係る地域課題の整理及び支援体制を強化するための資料として活用

3-1 始良・伊佐圏域の取組

年度	名称	内容	見えてきた課題や効果
H26	第1回 精神保健福祉専門部会	<ul style="list-style-type: none"> ・法改正の確認 ・精神障害者の地域移行に関する取組状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・改正精神保健福祉法の周知不足 ・地域移行・地域定着支援の認識の差が大きく、情報も不足
	第2回 精神保健福祉専門部会	<ul style="list-style-type: none"> ・管内各市町の入院患者の状況について情報提供 ・事例を通じた地域移行・地域定着支援に関する情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通じて、特に行政側が、精神科病院の現状や退院支援に向けた取組の状況について、具体的に学ぶ機会となる ・相談支援事業所の現状がよくわからない
H27	精神障害者の地域移行・地域定着に係る意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の地域移行・地域定着支援を実施している4事業所との意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行・地域定着に関する普及啓発が不十分 ・各精神科病院の取組等について共有、意見交換できる場がない ・病院と相談支援事業所、行政との情報交換・連携強化 ・相談支援事業所のマンパワー不足
	第1回 精神保健福祉専門部会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供、意見交換 ・意識調査に関する意見徴収 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行・地域定着に関する情報共有の強化 ・管内の自立支援協議会への情報提供、提言
	第2回 精神保健福祉専門部会(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修 ・意見交換等 	

○ 今後の取組の方向性

- 圏域の障害者地域連絡協議会を核に各市町の自立支援協議会と連携強化
- 一般住民への普及啓発
- 関係機関への普及啓発
- 精神保健福祉に従事する職員のスキルアップ
- 情報収集・分析・評価・還元
- 実績の積み重ね

* 関係者間で地域移行・地域支援に対する目指すべき方向性の統一を図る！

4 都道府県としての来年度への抱負

地域移行推進のための人材育成について

- 新たに，退院後生活環境相談員のスキルアップ事業に取り組む
- 病院や相談支援事業所を対象にした研修を継続的に行う

市町村支援について

- 市町村によって，地域移行・地域定着に係る意識・意欲にばらつきがあるため，研修会や地域移行・地域定着推進会議において，統一を図る。

地域移行の推進について

受入条件が整えば退院可能な入院患者の調査において見えてきた課題の解決に向けた取組を推進する。

- 退院後の住まいの確保に係る課題解決のため，「県居住支援協議会」との連携を検討する（これまで精神分野においては全く連携が図れていない）
- 長期入院精神障害者の「退院に向けた意欲の喚起」を図るため，ピアサポートや当事者グループの更なる活用を推進するとともに，人材育成のあり方について検討する。
- 退院に係る家族の不安軽減を図るための家族支援を行う。

5 次年度の戦略

長期目標

鹿児島県第4期障害福祉計画目標値

項目	目標値 (H29)
入院後3か月時点の退院率	58.4%
入院後1年時点の退院率	88.3%
在院期間1年以上の長期在院者数	18.0% (5,250人)

短期（次年度）目標

- 退院後生活環境相談員のスキルアップ研修等を通じて、病院における退院支援の底上げ、平準化を図る。
- 精神障害者の地域移行・地域定着推進会議等を活用し、病院と相談支援事業所の顔の見える関係づくりを強化し、地域移行・地域定着支援の活用を推進する。

目標達成のためのスケジュール（いつ、だれが、何を、どのように実施するか）

時期	県	関係機関
8月 目処	退院後生活環境相談員の業務の課題・改善点を明確にし、課題解決に向け、新たな研修事業に取り組む。	退院後生活環境相談員は、研修内容等を生かし、退院支援に積極的に取り組むとともに、中核的人材として病院における取組をリードする。
通年	保健所単位で開催する「精神障害者の地域移行・地域定着推進会議」において、地域の課題が明確になってきたため、課題解決に向けて、各機関の役割等を整理し、取組を進める。	
通年	病院においては、入院後早期に地域移行支援の活用を検討し、入院者が利用しやすいよう支援を行う。相談支援事業所は、先進事例等を参考に支援を行える体制を整備する。	